

2012 年度後期学生授業評価アンケート集計結果に対するコメント —経済学部—

経済学部長 杉 本 義 行

今回、経済学部開設科目（一部法学関連科目を除く）で後期および通年科目のうち、アンケート実施が義務付けられた科目は、実施が任意であるゼミ・演習、受講者 10 名未満の科目を除いた 185 科目でした。そのうち 182 科目についてアンケートが実施され、実施率は 98.4% でした。また、実施が任意の科目のうちゼミ・演習、受講者 10 名未満については 116 科目のうち 55 科目が実施（実施率 47.41%）され、つごう 237 科目について、延べ 6,331 名のみなさんからご協力をいただきました。この場を借りて、お礼申し上げます。また、アンケートの実施に対しての貴重な授業時間を割いてご協力頂いた経済学部専任・非常勤の先生方にも深く感謝いたします。

科目ごとの集計結果については、どの科目についても Campus Square for Web から学生のみなさんならびに教員も自由に閲覧することが可能となりましたが、ここでは経済学部全体の集計結果について若干のコメントをしたいと思います。

さて、このコメントを作成するにあたり、学部全体の集計結果はもちろんのこと、アンケートが実施された 237 科目すべてについて科目ごとの個別集計結果ならびに記述による「授業に対するコメント」に目を通したことを、まずご報告いたします。

対象となった後期科目の「総合評価」の学部平均は、5 段階評価で 4.14 でありました。設問ごとの結果と総合評価との相関係数をみると、これまでと同様に、「この分野への関心と学力が得られた」という項目が 0.80 と相関係数が一番高くなっており、ついで「授業への教員の熱意を感じた」(0.69)、「教員の話し方は明瞭であった」(0.69) と教員の授業への取り組みの態度との相関が強くてでています。また、前期同様「教員は教室内で学習にふさわしい状態に保たれるよう心掛けた」(0.66)、「教員は授業時間を有効に利用した」(0.64)、「シラバスと内容が一致していた」(0.64)、「この授業のレベルはあなたにとって適切であった」(0.63) が重要なファクターであることが示唆されています。

評価が低い項目としては「予習または復習をよくした」(3.34)、「この授業のレベルはあなたにとって適切であった」(3.78)、「教員は発言・議論等授業参加を積極的に促した」(3.80) となっております。昨今、大学の教育に関して、「一方的な知識伝達ではなく、主体的に学びことに重点をおき学習時間を増やすべき」という議論がなされておりますが、こうした観点から、我々も授業に対して一層の工夫をする必要があるように思います。個別科目のコメントでは、これまで同様に「私語」に関することや、授業への遅刻などについて厳しい指摘が散見されました。私語は学生のみなさんの問題でもありますが、良好な学習環境の確保に教員がこまめに配慮する必要があります。

以上、指摘された点を真摯に受け止め引き続き、授業内容の一層の改善につとめたいと考えます。